

桜川および霞ヶ浦の植物 について (第二回)

後 藤 直 和

前号では桜川や霞ヶ浦で見られる水生植物の種類をあげ、そのうちの数種類について簡単な説明をつけました。

残りの種類についても、わかりやすく説明できるといいのですが、写真も図もないと、どうしても無理がありますのでその説明は省略し、それらの植物の分布や生育状態がここ二十三年の間どのようになつたかについて述べることになります。但しこれに関する資料は、私個人の調査によるものだけしか手許になく、それも甚だ不十分なものですから約二十種に及ぶ植物の消長の全貌が明らかになつてゐるわけではありません。以下最後のイバラモを除いて

- ①は昭和三十四年当時の状態
- ②は四十六年
- ③は四十七年つまり現在の状態を記したものです。

◇ ヒメガマ ①桜川河口附近の霞ヶ浦(A点)で少し

見られたが、他の場所にはなかった。②桜川下流の南岸から霞ヶ浦湖岸(B点)にかけて大きな群落ができ、藤川団地先のもと水泳場であつた所(C点)にも群落ができつていた。また、桜川では下流だけでなく少し上流の水郷橋附近まで所々に生育されているのが見られた。③大体同じ状態で、B点やC点の群落は更に発達傾向が見られる。

◇ ハ ス ①野生の状態のものはほとんどなかった。

②野生化した大きな群落はB点にできていた。③同様な状態で、またヒメガマと同様に群落発生の傾向が見られる。

◇ オニバス ①A点にかなり大きい群落があつた。

②同じ場所にくく少数あることがわかつたが、くわしく確認することはできなかった。③A点に近いB点に数株あるが生育状態は悪く、他の場所には見られない。

◇ ヒ シ ①A点と神林附近(D点)にあり、他の場所にはほとんどなかった。②A点、B点に多く見られさらに桜川では下流から国鉄の鉄橋のあたりまで広い